

科目名	副題	科目概要
日本語教育学01	日本語を対象とした第二言語習得論	本講義では、第二言語ないし外国語の習得過程の認知作用、及び、社会文化心理的要因の解明を目指して行なわれる学際的研究に基づく第二言語習得理論全般を理解した上で、日本語を母語以外の言語として意識的に学習、または、無意識のうちに習得していく現象の記述と整理の方法を学ぶと同時に、その理論的説明を試み、且つ、その第二言語としての日本語学習方法、教授法への示唆を考察する。この科目を通して、先行研究、研究方法、問題点を把握した上で、日本語学習者から収集されたデータを分析し、日本語習得のメカニズムへの理解を深め、その学習・教育現場への教示を探ることができるようになる。
日本語教育学02	日本語教育学総論	学習者中心の日本語教育をめざして、教師はどのようなことを考えればよいか、コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン、評価に関する講義を行う。ディスカッションや模擬授業を通して、多様な学習者に応じたデザインを多角的に考える必要性や、教室内インターアクションの意義について考察する。この科目を通して、日本語教育が何を指すかについて認識を深めることができる。
日本語教育学03	日本語教授法・教材論	主要な外国語教授法/日本語教授法とその変遷を学び、それぞれの長所・短所を議論するとともに、多様化する教育現場での効果的な応用を考える。また、教材分析および教材開発に必要な視点(評価項目)、必要な手順を整理し、様々な教育環境に対応できる基礎力を養う。この科目を通して、様々な教授法の特徴に基づき、既存の教材分析を行い、その教材の適性を把握した上で、シラバスや授業の要件に沿った小規模な教材開発をすることができるようになる。
日本語教育学04	対照言語・文化論	学習者の第一言語と第二言語である日本語、およびそれらの背景にある文化を対照的に観察、分析する。言語については、音声、語彙、文法、談話等の構造面を、文化については、社会的要因により異なるコミュニケーションのとり方や発話行為の仕方など、文化の反映されやすい言語運用面を社会言語学的、語用論的視点から観察するが、類似点・相違点の整理、記述にとどまらず、それらの背景にある一般的な原理や傾向についての考察を試みる。この科目を通して、言語・文化の対照研究の成果を日本語教育の現場に活かすことができるようになる。
日本語教育学05	言語文化教育論	第二言語教育及び日本語教育の分野で文化がどのように捉えられ、言語教育の中で扱われてきたか、その変遷と多様なアプローチについて学ぶ。前半は、90年代前半までの文化と言語を切り離した文化教育を中心に振り返る。後半は、グローバル化、多文化共生社会というポスト構造主義の流れを受けた上での文化、言語能力、文化と言語の関係、について再考していく。この科目を通して、受講者各自が言語教師として文化と言語、あるいは言語文化教育をどのように位置付けてきたのかを内省し、今後どのように向き合っていくのかを主体的に考えることができるようになる。
日本語教育学06	年少者日本語教育論	本講義は、「日本語を母語としない子どもたち」のこばに焦点を当て、第二言語の発達や教科学習、母語保持に関わる理論と、教科学習支援の実践的モデル(教授法)や評価方法について論じる。また、子どもたちを取り巻く日本社会の現状や教育的課題についても認識を深める。この科目を通して、年少者日本語教育の現状と課題についての理解を深めることができる。
日本語教育学07	日本語学(音声学・音韻論)	本講義では、まず日本語の音声の構造と特徴を母音・子音、音節・リズム、アクセント、プロミネンス、イントネーションなどの項目で学ぶ。次に、主な外国語(英語や中国語など)の音声特徴と比較対照して、日本語学習者の問題点を言語別に把握し適切に対処できる能力を身に付ける方法を学ぶ。また、自分の発音や聞き取りを物理的・音響的側面からチェックするために、音声分析ソフトなどを活用する方法論についても学ぶ。この科目を通して、日本語の音声言語研究および音声教育に役立つ日本語の音声学の知識と分析方法を身につけることができる。
日本語教育学08	日本語学(語彙・意味)	日本語の語彙・意味の諸問題について、記述的かつ理論的に考察する。単語と文の意味を対象とし、日本語の語彙体系、語の構造、語形成、さらに、文の意味を文脈の中でどう捉えるかについて考察する。この科目を通して、日本語の語彙論・意味論の基礎的知識を身につけた上で、語彙・意味の現象を分析することができ、日本語教育に応用することができる。
日本語教育学09	日本語学(文法)	日本語の文法の諸問題について、特に、日本語の文の構造という観点から考察する。述語文の特徴、格助詞の文法機能、ボイス、テンス、アスペクト、モダリティ等の基本的な文法カテゴリーについて、考察する。この科目を通して、日本語の文法についての基礎的知識を身につけた上で、文法現象を分析することができ、日本語教育に応用することができる。

科目名	副題	科目概要
日本語教育学010	語用論・談話分析	本授業では、日本語でのコミュニケーションに注目し、語や単文を超えた談話レベル及び対人機能における言語行動に焦点を当てる。発話行為(スピーチアクト)論、語用論、コミュニケーションの民族誌、エスノメソドロジ的会話分析、アコモデーション理論など談話を対象としたアプローチを概観した上で、各アプローチの具体的研究として言語対照、接触場面、教室談話、SNS等の新メディアにおける談話、などの分析例や調査方法を学ぶ。この科目を通して、語用論的研究及び談話研究のための多様な手法、アプローチ、背景理論を知り、談話研究の意義や調査方法を理解することができるようになる。
日本語教育学11	日本語教育学の諸問題	本講義は日本語教育学プログラムの通常カリキュラムを補強することを目的とし、必要に応じて発展的・特定のテーマを扱う。科目内容はシラバスに記載する。
日本語教育学演習01	日本語教材開発演習	この演習では、目的や学習者の特性に合致した教育活動を可能とする日本語教材の開発作成を実践的に行なう。主として紙媒体の教材を対象とする。教材作成に際し、開発者や教師の信念に関する内省、言語実態の調査、学習者のニーズ分析、既存の教材の検討などの準備の諸段階を体験する。提示にあたっての視覚的留意点、文法・機能・文化背景などの説明の際の有効な手順などを論じるとともに、模擬授業などを通じて教材の教えやすさ、学びやすさを検証することも適宜行う。この科目を通して、紙媒体の日本語教育教材の開発の基本を身につけることができる。
日本語教育学演習02	電子教材開発演習	情報コミュニケーション技術を利用した言語学習教材について、既存のものを比較検討して評価するとともに、具体的なプラットフォームを用いて作成する。動画や音声の制御などのマルチメディア・コンテンツの開発に関する知識とともに、正規表現、変数の宣言と代入、条件判断と分岐、反復的な処理の管理、配列への追加や削除、乱数化を用いた要素の並べ替えなど汎用的なプログラミング技術の習得を図る。作成した教材をサーバー上に転送して管理することを通じて、ネットワーク教材の運用を実践する。この科目を通して、電子教材の開発の基本を身につけることができる。
日本語教育学演習03	日本語教育実践演習	日本語教育実習も含め、実際に教壇に立つ前に必要な知識・技能(実践力)の習得を目標とする。授業では、主要な教授法の特徴と活用方法、授業見学/授業評価のポイント、教科書/教材の評価と活用の仕方、シラバスの書き方、教案の作り方と実践、模擬授業、テスト問題の作成などを行う。想定する日本語学習者は、初級および中上級程度とする。この科目を通して、日本語の授業に必要な実践的知識・方法論を身につけることができる。
日本語教育学演習04	日本語教育演習	国内外の大学や日本語学校など実際の日本語教育機関において、初級または中上級レベルの日本語学習者を対象として日本語教育実習を行う。実習派遣前には事前指導、現地実習後には事後指導を行う。この科目を通して、実際の日本語教育現場に立ち、教授者に必要な知識、実践的能力をさらに向上させることができる。
応用言語学のための統計解析		応用言語学で必要となる統計的手法の基礎を身につけることを目的とする。量的研究を扱うが、これは、(教育)現象のある側面を変数としてデータを収集し、数値化した統計的に分析をすることによって、現象を理解し客観的に説明するためのものである。本講義では、データの準備段階や基本的な統計の概念を紹介した後、応用言語学における主な量的研究の例を用いて、平均値の差の比較、相関、因子分析等の手法に加え、ノンパラメトリック手法についても学んでいく。また、質問紙調査の方法についても触れる。この科目を通して、各自が量的研究を主とした研究課題に取り組んだり、統計を用いた関連領域の研究をより深く理解するための知識を得ることができる。
基礎言語情報処理		本演習では、コンピュータを使って言語データを扱うための基盤的な知識と基礎的な技能を身につける。実際にコンピュータを操作しながら、コンピュータと言語情報処理の基礎的な技能を学ぶ。文字コードなど、言語データを扱うための基盤的な知識、基礎的な技能から始め、テキスト処理では、正規表現による文字列の検索や置換、言語解析を使った情報抽出などの力を身につける。そして、実際に言語を数量的に扱うための基礎の1つとしてコーパスを利用した言語研究というアプローチを学ぶ。この科目を通して、コンピュータを用いた言語研究の基礎的な知識と方法論を身につけることができる。
英語文献講読		本講義では英語で書かれた外国語教育学や言語学における主要な先行研究の論文を批判的に読み、それぞれの分野におけるこれまでの到達点を把握するとともに、それぞれの論文の長所・短所、当該分野で残されている課題などを議論する。この科目を通して、外国語教育・言語学の英語で書かれた研究文献を正確に把握する力を身につけることができる。

科目名	副題	科目概要
英語アカデミックライティング		研究テーマに関して英語で学術的な論文を書く力を身につけるための講義・演習を行う。具体的には、英語でのノートテイキングや要約作成の技術、style sheetについての知識、英語でかかれた外国語教育学や言語学の論文の構成例、先行研究の引用方法、参考文献リストの書き方などを扱う。この科目を通して、5000 words 程度の研究論文が書けるようになる。
英語アカデミックプレゼンテーション		この講義・演習では英語で学術的な発表を行うための基礎知識と実践技術を習得する。具体的には、応用言語学の基礎文献や先行研究論文の要約を英語でまとめる技術、効果的なパワーポイントのスライドの作成技術、英語での学術的な発表において頻繁に使用されるフレーズ、効果的な発表の構成と発表方法などを実践を通して習得していく。また、発表後の質疑応答で使えるストラテジーなども検討する。この科目を通して、英語で学術的な研究発表ができるようになる。
日本語アカデミックライティング		研究テーマに関して日本語で学術的な論文を書く力を身につけるための講義・演習を行う。具体的には、要約作成の技術、論文の書式についての知識、日本語でかかれた日本語教育学や言語学の論文の構成例、先行研究の引用方法、参考文献リストの書き方などを扱う。この科目を通して、10000字程度の研究論文が書けるようになる。
特殊講義		本講義は通常カリキュラムを補強することを目的とし、必要に応じて発展的・特定のテーマを扱う。科目内容はシラバスに記載する。
研究基礎論 1		本科目は、M1生を対象とした研究指導のための2科目のうち、最初に履修するものである。研究とはどのようなものか、先行研究の読み方、研究課題の設定の仕方、研究倫理についてなどを扱い、研究を行う上での基礎力涵養を目的とする。M1の2学期目に行う構想発表会に向けての準備につながるような内容である。この科目を履修することにより、研究課題の背景となる知識と研究を進めていくための方法論が身につく。
研究基礎論 2		本科目は、M1生を対象とした研究指導のための2科目のうち、2番目に履修するものである。研究基礎論1に引き続き、研究を行う上での基礎力涵養を目的とする。構想発表会に向けて、興味のある分野の先行研究を批判的に読み、研究課題を絞り、その課題を解決するための方法論にどのようなものがあるか、具体的に検討し、構想発表会の準備をする。構想発表会で受けた指導をふまえ、さらに研究を発展させる。この科目を履修することにより、課題研究演習の準備をすることができる。
課題研究演習 1		本科目は、M2生の研究指導を行うゼミ形式の必修2科目のうち、最初に履修するものである。受講生の研究課題にそった研究指導が行われる。それぞれの研究課題の背景的研究を詳細に検討し、研究課題をしぼり、適切に位置づける。妥当な研究方法をの検討に入り、次学期の中間報告会で、十分な成果発表ができるよう準備する。この科目を履修することにより、研究課題の絞り込みと研究方法の具体的検討ができるようになる。
課題研究演習 2		本科目は、M2生の研究指導を行うゼミ形式の必修2科目のうち、課題研究演習 1の後に履修するものである。受講生の研究テーマにそった個別の研究指導を行い、中間報告会でうけた指導を踏まえ、修正・発展させ、修士課程の集大成として研究成果を形にする。この科目を履修することにより、修士学位にふさわしい研究成果に結びつく研究を進めることができる。